

秋期特別展：『鳴く虫・はねる虫-湘南の直翅類<ちよくしるい>-』

1995年

開催期間：10月1日（日）～11月12日（日）

鳴いたり・はねたり・隠れたり-直翅類とはどんな虫か?-

秋の特別展では、コオロギ・キリギリス・バッタといった直翅類と呼ばれる虫たちを紹介します。チョウやガの鱗翅類、セミやカメムシの半翅類、カブトムシやテントウムシの甲虫類など他の昆虫と比べて、直翅類はどんな特徴を持っているのでしょうか。

・鳴く虫が多い

首を回してギシギシいうカミキリムシのように体のどこかで音を出すことのできる虫には多くの種類があります。しかし、発音のための仕組みが発達して楽器のようになり、音楽的な発音ができる虫は限られています。その一方の代表がセミであり、もう一つの代表がコオロギやキリギリスの直翅類です。これらの虫たちには耳も発達しており、声がコミュニケーションの手段になっていることが分かります。

神奈川県には約100種類の直翅類が見つかりますが、その半分以上は「鳴く虫」です。

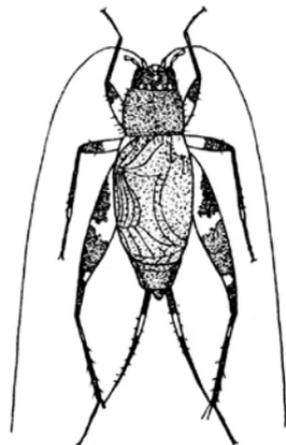
・はねる力が強い

直翅類のもう一つの特徴は太い後ろ足を持っていて、敵に出会った時などに勢いよくはねて逃げるこ

とができることです。トノサマバッタのように、はねた後、翅を使って長い距離を飛ぶことのできる種類もありますが、コオロギ類などははねることを唯一の逃げる手段にしています。

・隠れるのが上手

直翅類は緑色か茶色をした種類がほとんどです。それは草むらや木の茂みにとけ込む、保護色の役目をしています。クツワムシのように翅に葉脈に似た模様があり、さらにカムフラージュを発達させている種類もあります。



▲カワラスズ

特別展ではこうした直翅類の姿を様々な角度から紹介します。ぜひお楽しみに。



＜クツワムシ＞

減る虫・増える虫

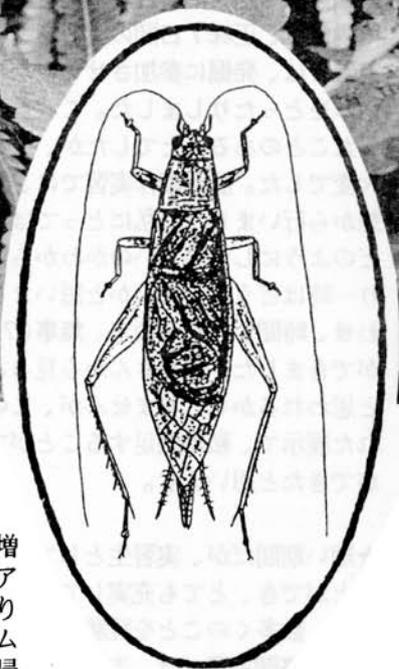
■秋の特別展では、私たちの身近にすむ直翅類（ちょくしるい＝キリギリス・コオロギ・バッタ類）の種類と生活を紹介します。

■神奈川県には全部で111種類の直翅類が分布していますが、その中には、減っている種類と増えている種類があります。減った種類の代表は、ガチャガチャガチャ……とにぎやかに鳴くクツワムシです。1980年代の半ばまでは平塚の市街地にも見られ、浅間町の八幡神社でもたくさんの声が聞かれました。しかし、最近では土屋の愛宕山などごく限られた場所でしか見つからないほどになってしまいました。これは、街中からつる草の茂ったヤブがなくなったことが原因と思われます。マツムシ・スズムシなども減少が目立つ種類

です。

■一方、急激に増えている種類にアオマツムシがあります。アオマツムシは中国原産の帰化昆虫で、明治時代に東京で初めて見つかりました。その後市街地を中心に分布を広げ、特に戦後いちじるしく増えています。現在では、神奈川県ではもっとも目立つ鳴く虫で、バスや電車の窓から聞こえる虫の声は90%アオマツムシと違って間違いありません。

■このように鳴く虫の世界にもいろいろな変化が見られるのです。＜秋期特別展より＞



＜アオマツムシ＞

■一方、急激に増えている種類にアオマツムシがあります。アオマツムシは中国原産の帰化昆虫で、明治時代に東京で初めて見つかりました。その後市街地を中心に分布を広げ、特に戦後いちじるしく増えています。現在では、神奈川県ではもっとも目立つ鳴く虫で、バスや電車の窓から聞こえる虫の声は90%アオマツムシと違って間違いありません。

■このように鳴く虫の世界にもいろいろな変化が見られるのです。＜秋期特別展より＞

◇秋期特別展◇

「鳴く虫・はねる虫 ー湘南の直翅類(ちょくしるい)ー」

●会期／10月1日(日)～11月12日(日)

●会場／博物館特別展示室

●主な展示資料／直翅類標本(約300点)・生態写真(約100点)・マイコンによる画像と声の展示